

科目名	失語症Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕							
成人における言語障害について、失語症を中心として、定義、鑑別診断、症候、タイプや重症度、予後を理解すると共に、基礎的な評価法と記録、分析方法を身に付ける。							
〔授業全体の内容の概要〕							
失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学ぶ。							
〔講師の実務経験〕							
幸生病院、ドレミリハビリテーションセンター、機能訓練教室にて言語聴覚士として29年間勤務							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
失語症の基礎知識の確認と臨床現場の症例の訓練計画について							
回数	講義内容						
1	失語症の基礎知識						
2	失語症の検査・評価						
3	失語症の訓練						
4	非流暢の訓練						
5	流暢の訓練						
6	嚥下 失語症と関わりを交えて						
7	聴覚失認 //						
8	発語失行 //						
9	失読・失書 //						
10	失行 //						
11	視覚失認 //						
12	半側空間無視 //						
13	構成障害 //						
14	記憶障害 //						
15	認知症 //						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
失語症臨床ガイド				協同医書出版社			
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】							
筆記試験にて評価する。							